

【来賓挨拶】

登壇者(敬称略) ※肩書はイベント開催当時のもの	笠浩史 衆議院議員/スポーツ議員連盟副会長
-----------------------------	-----------------------

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました、立憲民主党の国会対策委員長を務めております笠でございます。

先ほど、超党派のスポーツ議員連盟の遠藤会長代行から、私たちの取り組みについてお話がありました。私もずっと野党のまとめ役をやっております。国会では対立している場面ばかりが報道されるので、よく怒られることもあるのですが、今年の通常国会でも、先ほどご紹介のあったスポーツ基本法の改正を 14 年ぶりに行わせていただきました。私も国会対策委員長ですから、野党をまとめ、むしろ自民党に「もっと急いでください」なんていうことを、遠藤先生ともお話をしながら、常に超党派でスポーツの分野の法律や政策に、力を合わせながら取り組んでいるというのが実情でございます。

私からは多くは申し上げませんが、スポーツの必要性、重要性、そして東京オリンピック・パラリンピック大会のレガシーをどのように残していくのかは、国民の皆さんの中でも大いに議論があるところです。

ただ、残念ながら、国の予算というのが当初予算で 115 兆円規模にも関わらず、その中でスポーツ関連の予算は 360 億円余りしかありません。国民 1 人当たりになると、コーヒー 1 杯にもならない 300 円ぐらいにしかになっていないわけです。国費をもっと充実させたいということは、われわれの思いにもありますが、国の予算には社会保障や教育などもございますので、さまざまな限りがございます。

だからこそ、民間の資金をしっかりと呼び込んで、スポーツ産業が振興することによって、さまざまなプロスポーツはもちろん、子どもたちの体力づくり、スポーツに親しむ機会の裾野を広げていくことまで含めて、しっかりと支えていかなければならないと思っております。

そういう中で、このスポーツエコシステム推進協議会が、多くのステークホルダーの皆さま方をつなげて、知恵を出し合いながら広げていこうという取り組みには、大いに期待を寄せているところでございます。

スポーツ基本法の改正に当たりまして、今までのスポーツをする人、あるいは見る人、そして支える人に加え、今回は集う、集まる、さらには「つなぐ」という概念を加えたところでございます。まさにこのつなぐというところを皆さんと一緒に、これからも大いに取り組んでいきながら、スポーツ界の発展、あるいはスポーツ産業というものをもっと振興できるような環境づくりをしていくことをお約束申し上げまして、ごあいさつとさせていただきます。